



三浦半島news

発行日 2019年9月2日 第60号

発行 三浦半島地域連合

TEL:046-821-0005

Fax:046-821-3705

〒238-0006 横須賀市日の出町1丁目5番地ヴェルクよこすか3階

三浦半島地域連合・労福協共催、地域外研修視察In沖縄!

激戦のハクソーリッジにて



戦争は美化され誤魔化されてしまう。」という切実な思いを込めて、戦争を生き抜いた人々の声から制作されたこと等の説明を受けました。作品の迫力と込められた戦争体験者の思いに圧倒されるばかりでした。しかし、美術館の隣は米軍普天間飛行場があり、米軍機のエンジン音が鳴り響く現実がありました。

辺野古基地建設の対岸にあたる「瀬嵩の浜」を訪れ、基地反対の多くの民意を無視して辺野古埋め立て工事が進められている現状を確認しました。全駐労沖縄地区本部のお二人のガイドの説明を受け、沖縄の基地負担割合の多さだけでなく、様々な政治的・軍事的理由により、新たな基地が沖縄に作られることの意味を本土の私たちは重く受け止めることが何より大切なのだと強く感じることができました。



民意を無視して進む辺野古埋め立て

忘れてはいけないアブチラガマの悲劇



2日目は、「ひめゆりの塔」や「平和祈念公園」などを視察しました。特に「アブチラガマ」では、現地ガイドさんの語りから、民間人を巻き込む戦争の悲惨さと住民が強いられた犠牲を圧倒的な存在のガマの中で感じる事となりました。「地獄とはあの世でなく、この世だった。」という生き残った人の言葉が強烈に心に響きました。真っ暗で無音のガマの中で、その犠牲の上で生きる私たちが平和の尊さや命の大切さを守り、それを未来につなげていく責任と、そのためにも多くの仲間と連帯してとりくんでいくことの必要性を改めて確認することができました。

3日目は、道の駅かでなで巨大な滑走路と嘉手納基地に関わる米軍の現状について学習しました。その後、全駐労沖縄地区本部にて意見交換会を実施しました。「基地従業員は派遣のようなもの。地位協定による治外法権の基地内では簡単に制裁解雇や出勤停止が起こる。防衛局は米軍が言うがまま。労働者保護のために組合として取り組んでいる。」等の様々な課題を通して、基地労働問題の難しさを学ぶことができました。

お世話になった全駐労の2名の仲間の「沖縄を知ってほしい、沖縄のことを考えてほしい。」との強い思いを忘れず、今も戦争の影響が消えることのない沖縄に寄り添い、沖縄とどのように連帯していくのか、それぞれの組織で考えていくことの重要性を参加者全員で確認できた3日間となりました。



全駐労沖縄地区本部と意見交換



三浦半島地域連合・かながわ労働センターとの意見交換開催!



7月16日(火)18時からかながわ労働センターと地域連合五役との意見交換をヴェルクよこすかにて開催しました。

かながわ労働センターから4名、地域連合五役8名、合計12名で行い、冒頭かながわ労働センター柿木所長から労働相談の実情を含めた挨拶、続いて滋野議長から相談内容を共有し、今後の活動に活かしていきたいとの挨拶したのち、かながわ労働センターの担当者より労働相談状況の詳細説明や具体的な事例の説明を受けました。

2018年度の労働相談の概況は、①年間の相談件数は12816件で前年度に比べ9.8%増、②女性からの相談件数は7,373件、7年連続で男性の相談件数を上回っている、③「解雇・雇止め・退職」、「労働時間」、「賃金」が相談内容の上位3項目で41.0%を占めるとのことでした。また、神奈川県内の労働組合の状況については、①推定組織率が16.3%(0.6ポイント減)、②労働組合数2,399組合(前年2,451組合)、組合員は582,096人(前年591,857人)といずれも減少、③女性の組合員数が7連続で増加している、との報告がありました。

その後、三浦半島地域連合の活動を紹介した後に意見交換が行われました。

意見交換では相談内容1位の「解雇・雇止め・退職」で辞めさせてもらえない事例や就職氷河期世代の正規社員への登用などについて意見交換しました。

かながわ労働センターとの意見交換会は神奈川県内で労働組合がない方の相談が中心となりますが、神奈川県で働いている仲間がどのようなことで悩み・相談しているのかを把握し、地域連合の活動に活かすことを目的に開催しています。

「連合神奈川ピースウィーク」核兵器廃絶1000万署名を実施

8月3日(土)14時30分から猛暑で30度を超える炎天下、京急久里浜駅東口にて「連合神奈川ピースウィーク」活動を行いました。

当日は三浦半島地域連合の役員17名と牧山参議院議員の秘書、三浦半島地域連合議員団の角井横須賀市議会議員の合計19名で開催しました。

組織を代表し、滋野議長が「核兵器廃絶」に向けての思いを話し、その後、議員さんが平和に対する思いを市民に直接訴える中、約一時間にわたり地域連合役員が「核兵器廃絶」を訴えるうちわ配布を行いながら「核兵器廃絶1000万署名」を行いました。「核兵器廃絶1000万署名」はピースウィーク終了後の「フェリーDE花火」のイベントでも行い、合計で215筆が集まりました。集まった署名につきましては連合神奈川を通じて、国連に提出して「核兵器廃絶」の実現を訴えていきます。

